

今後も、さらなる発展を

「災害から人命を守り、災害の教訓を生かして発展を続ける災害に強い社会の実現を目指すこと」を基本目標として、今後も防災科研では、多くの方々の意見を頂きながら他の研究機関と連携を深め研究を進めていきたいと考えています。



遠山文部科学大臣の挨拶。懇親会にて。

(問い合わせ先：企画部企画課
0298-58-1773)

石田瑞穂研究主監に 紫綬褒章

石田瑞穂研究主監が、紫綬褒章を受章されました。氏は、地震発生のメカニズムについて、30年以上にわたって研究し、三次元のデータ解析とプレート相互の作用を組み込んだ画期的な「関東・東海地域のプレート構造モデル」を構築したことが認められました。関東・東海地域は、1978年に地震観測の強化地域に指定され、当時、地震発生機構の解明や被害予測に必要なプレート構造については、フィリピン海プレート全体の運動を考慮せずに、二次元的に求められた震源分布のみでモデル化されていたため、合理性が十分ではありませんでした。氏は、球構造解析を導入した三次元速度構造プログラムと不均一な速度構造を導入した三次元震源決定プログラムを開発し、地震波速度構造、震源分布、地震発震機構解の分布を求め、さらに、プレートの運動方向を考慮し、海洋プレートの沈み込



有志による祝賀会にて

み方向に平行な鉛直断面上に、震源と発震機構解を投影するという新たな解析を行い、フィリピン海プレートの北東縁が太平洋プレートの上面に面的に接触しながら沈み込み、両プレート間の相対的運動により、地震を多発させるという画期的なプレートモデルを構築しました。この成果は、過去に起きた地震の解明や、近年発生した地震の合理的説明の手段として用いられ、将来の関東・東海地域で起こるであろう大地震の震源モデルや、震動予測に活用されています。特に、政府の地震調査委員会におけるデータ解析の基盤として活用され、社会資産の保全に寄与するとともに、国民生活の安全性の向上に大きく貢献しています。

(問い合わせ先：企画部企画課
0298-58-1773)